

## 学部長あいさつ

看護学部長・教授 小原 泉

ご挨拶に代えまして、令和 6 年度を振り返り所感を述べさせていただきます。

令和 6 年度は 105 名の新入生を迎え、教育活動に関わる感染症対策を必要最小限に留めてスタートしました。指定の感染症に罹患した場合、学生も教職員も就学や就業に制限がありますが、ようやくかつての日常が戻り、様々な活動に存分に取り組める日々となりました。

本看護学部では臨地実習を重視しており、1 年次生は 6 月下旬に看護の対象の理解を深める実習を、2 年次生は 9 月から 10 月に初めて患者を受け持ち看護を実践する実習を本学附属病院で行いました。3 年次生には新たなカリキュラムが適用され、本学の附属病院・附属さいたま医療センターや県内の保健医療福祉施設で、周産期、小児期、老年期の対象に対する看護実践、高度医療の場における成人・老年期患者への看護実践、精神障害をもつ人、在宅で療養する人、顕在的・潜在的な保健指導ニーズがある人々・地域に対する看護実践を学びました。4 年次生は 7 月～8 月に様々なフィールドで自身の関心テーマに基づく実習を展開し、助産師を目指す学生は 9 月から 11 月に助産学実習があり、命の誕生に直接関わる看護実践を経験しています。看護系大学が 300 課程を超えた中で、看護師と保健師の 2 つの国家試験受験資格を学生全員が得られる大学は約 1 割に留まり、助産師の国家試験受験資格を得られる大学は 3 割弱にすぎません。本学で全学生が看護師と保健師、一部の学生は助産師の国家試験受験資格を得られる統合カリキュラムを実現できているのは、臨地実習を受け入れて下さる方々のご支援のおかげであり、関係者の方々に深く御礼申し上げます。

本学は地域医療に貢献する医療人育成というミッションがあり、看護学部では「へき地の生活と看護」という選択科目があります。令和 6 年度の国内演習は北海道夕張市、青森県東通村、福島県富岡町、群馬県中之条町、新潟県湯沢町、福井県おおい町、愛知県東栄町、滋賀県米原市、奈良県下北山村、島根県海士町・西ノ島町・知夫村、山口県周防大島町、香川県直島町、鹿児島県瀬戸内町の施設で受け入れていただきました。学生が各地での学習経験を生き生きと語る姿は豊かな学びが得られた証であり、施設・自治体職員そして住民の皆様、ご協力いただきました地域医療振興協会の方々に深く感謝申し上げます。

令和 7 年 3 月に第 20 期生が卒業し、本学の卒業生は 2082 名となりました。国内外では、戦争、自然災害、暴力、生活の困窮など、人々のこころとからだや生活を脅かす問題の深刻さが増すばかりですが、先の見えない時代といわれる中でも保健医療福祉の場での卒業生の活躍は未来への希望を抱かせてくれます。自ら行動し、高度医療ならびに地域医療に貢献できる人材を育成できるよう注力して参りますので、今後ともご理解とお力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。



## 本学看護学実習における新カリキュラムに伴う臨地実習



教務委員長 村上 礼子

本看護学部の看護学実習は、自治医科大学看護学部の教育理念に基づく教育目標を達成するために、看護の対象となる人々がいる場で行われる臨地実習を指します。学生たちは、臨地実習において、常に看護の対象となる「人」を中心に考えつつ、ヘルスケアチームの一員としての役割を担っていることも念頭におきながら、座学で学習した専門知識と技術を統合した看護実践の経験を通して、基本的な看護実践能力を養います。

本看護学部では、令和4（2022）年度から新カリキュラムを開始し、図1のように臨地実習を各学年行っています。具体的には、1年生は入学して間もなくの6月に1週間の【対象の理解実習】を経験します。2年生では、新カリキュラムに伴い2週間から3週間になった【日常生活援助実習】を行います。3年生では、前学期の約3ヶ月を通して、自治医科大学附属病院、附属さいたま医療センター、とちぎ子ども医療センター、地域の病院、福祉施設等にて5科目の臨地実習を、そして、後学期も約4ヶ月の間、行政、企業、学校、在宅、福祉施設、医療機関等の様々な臨地の場にて4科目の臨地実習を行います。3年生の新カリキュラムでは、前・後学期通して、自治医科大学附属病院や附属さいたま医療センターにて臨地実習を受け入れていただくことになりました。4年生では、8月から9月にかけて約3週間、学生個々の実践上の課題に特化した「集中的な実習」と、地域ケア体制に特化して学ぶ「地域ケア体制実習」の2種類の【総合実習】を行う計画です。

令和7（2025）年度は、新カリキュラム開始後の初めての4年生であり、初回の【総合実習】の展開となります。充実した学習環境・学習機会を学生たちに提供できるよう、教員一同、臨地指導者や実習指導に携わる皆様と密に連携しながら、より良い実習指導を目指したいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

学期	前学期						後学期					
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年生												
2年生												
3年生	急性期	慢性期	周産期	小児期	老年期	対象の理解実習	日常生活援助実習	学校・産業 (市町村)	保健所 診療看護	在宅	診療看護	精神保健
	小児期	老年期	急性期	慢性期	周産期					精神保健	保健所	在宅
	周産期	小児期	老年期	急性期	慢性期					学校・産業 (市町村)	精神保健	在宅
	老年期	急性期	慢性期	周産期	小児期					精神保健	学校・産業 (市町村)	在宅
	慢性期	周産期	小児期	老年期	急性期					精神保健	学校・産業 (市町村)	在宅
4年生							総合実習 集中的な実習 2週間 地域ケア体制実習 1週間 助産学実習(選択)					

図1 自治医科大学看護学部 臨地実習年間配置

下線のある科目は、自治医科大学附属病院、とちぎ子ども医療センター、自治医科大学附属さいたま医療センターにて実習。

## 新カリキュラムに伴う学習支援の取り組み —ポートフォリオを活用したカンファレンスと個別面談—

教務委員会 ポートフォリオ担当 長谷川 直人

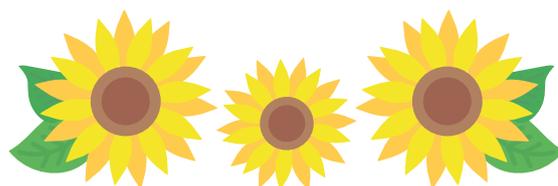
本看護学部では、学生の皆さんが在学中の学習経験を随時記録し、各学年の到達目標に照らして自分の経験を振り返り、次への学習につなげてもらうため、入学時に「看護学部ポートフォリオ」をお渡しし、活用してもらっています。ポートフォリオは、各学年のカリキュラムにおける学習の進捗と到達目標、看護学実習での経験録、看護技術の経験録、その他の各自の振り返りに有用な資料や記録等で構成され、自らの学習成果物を保存・蓄積し続けることで、学びの特徴や現状の把握、学習の改善に役立てられる“個別性のある総合的な学びのファイル”になっていきます。

一方で、看護学部の学生さんは、学ぶべき科目が多く、身に付けるべき資質や能力が多岐にわたるため、学びの記録や振り返りにも相応の時間を要し、自己の学習課題を明確化するのも容易ではありません。そこで、令和4年度からの新カリキュラムへの移行に伴い、当時教務委員長であった現看護学部長の小原泉教授が企画立案を主導され、学生さんの学びのプロセスの振り返り、自己課題への気づき、行動変容していくためのアイデアの創出を支援する企画として、ポートフォリオを活用したカンファレンスと個別面談を行っています。

ポートフォリオカンファレンスは、2年次初頭に、学生と教員との小グループで1年次の努力や成果等を紹介し合い、2年次に向けた目標への考えや感じたことを言葉にします。大多数の学生さんから、他者の意見を聴くことや学びや努力を共有する良い機会であった、役立ったという肯定的な反応が得られているほか、教員が話しやすくサポーター的な雰囲気をつくってくれたと高い評価を得る企画となっています。

また、個別面談の形式で行うポートフォリオ面接は、学習段階の区切りとなる2年次秋の日常生活援助実習の終了後、3年次の前学期終了後、同後学期終了後、4年次の総合セミナー終了後の計4回実施します。面接では、学生さんがこれまでの過程で自分の強みや成長を実感できたことや、これからやってみよう、やってみたいという学習上の興味や関心に焦点をあて、思いや考えを引き出しつつ、今後の学習の動機づけとすることを重視しています。学生による評価は、企画の完成年度となる本年度末に得る予定ですが、面接を担当された各学科目の教員からは、これまでの経験が流されずに学びとして位置づけられていた、課題を見出すことが次の学びの動機づけになっていた、など相応の手応えが得られています。

今後は、年度末の企画評価を踏まえ、学生の皆さんの更なる学習への動機づけと学習成果の向上をねらい、ポートフォリオ関連の企画をより洗練させていく予定です。



## 看護学生の今

### 4年生を迎えて

看護学部 4年 菊地 優奈

これまでの3年間の大学生活はあっという間だったように感じますが、特に3年次の1年間は一瞬で過ぎ去ったように感じます。

前学期に行われた病棟実習では、これまでの1年次、2年次の実習や講義での学びを糧にして、患者さんと向き合うことができたのではないかと思います。夏季休業後は、後学期の実習に向けた講義や課題、試験に追われる生活で、心が折れそうになることもありましたが級友と励まし合って乗り越えることができました。前学期の病棟実習で対象者を地域住民としてとらえる視点の大切さを学び、後学期で地域に出て実習を行う中で、その視点の重要性について学びを深めることができました。新カリキュラムとなり加わった診療看護実習では、医療従事者の各々の役割について学び、患者と最も近い存在である看護師が他職種との架け橋となる重要な役割を果たしていることにも気づき、看護師の魅力を改めて感じました。

先生方や臨地実習指導者の方々のご支援のもと、様々な場所で生活をする対象者と関わらせていただき、学びの濃い日々を過ごすことができました。残り1年間となった看護学生生活では、これまでの経験から構築された理想の看護師像に向かって精一杯努力をしていきたいと思います。

### はじめての病棟実習を振り返って

看護学部 3年 針谷 瑠唯

2年次の実習は、患者さんを受け持たせていただく初めての機会でした。今まで学んできた知識や技術を用いて、日常生活を支えるための看護について先生方や臨地実習指導者の方々のご指導のもと理解を深めることができました。

看護援助をする中で、患者さんの個性にあった看護をする難しさを感じ、入院中でもその人らしい生活ができるようにサポートする大切さを改めて学びました。ケア後に患者さんから言われた「ありがとう」はとても嬉しく、今後も忘れることはないと思います。また、看護技術の実力不足やコミュニケーション能力の乏しさなど、自身の課題もを見つけることができました。

実習を通して、これまでの講義で学んだ知識が繋がり、点と点が線になったと感じています。自身の課題も明らかになり、看護の奥深さを感じたことで、さらに看護を学びたいと思うようになりました。

実習後の講義では、様々なライフステージの看護について学び、今まで以上に主体的に取り組むことができました。3年次の実習はこれまでの学びや経験を活かし、より専門的な能力を高めていけるように励んでいきます。

### 入学から1年を振り返って

看護学部 2年 高橋 佑恭

看護学生としての一年を終え、振り返ると多くの学びと経験が詰まった時間でした。男子が少ない環境に最初は少し戸惑いもありましたが、次第に慣れていくことができました。勉強についていけるか、多くの課題をしっかりとこなせるか不安もありましたが、仲間と協力することで乗り越えることができました。

演習では、教わったことを学生同士で共有しながら、互いに技術を高め合うことができました。初めての病棟実習では、新型コロナウイルスの影響で実際に患者さんと話す機会はありませんでしたが、臨床現場で働く看護師さんの姿を見て、「私も頑張ろう」という気持ちになりました。

この一年を通して、高校生活では得られない多くの経験をし、とても充実した学生生活を送ることができました。今後は、より専門的な知識や技術を身につけるとともに、この環境で学べることに感謝しながら、将来の看護師としての道をしっかりと歩んでいきたいです。

## 学生の皆さんと共に歩む国家試験対策委員会の取り組み

国家試験対策委員長 浜端 賢次

本委員会の役割は、全員が国家試験に合格できるように学習をサポートすることです。しかし、実際に国家試験を受験するのは学生の皆さんになりますので、最後は自分自身との闘いになります。そのため、健康な心と身体、そして生活習慣の見直しを図り、最良の状態での国家試験に臨むことが求められます。

日々の学習の積み重ねがいかに大切であるかは言うまでもありません。教員は1グループ20名の学生さんに対して、2名体制で1年間サポートを行います。以下、本委員会の取り組みについてご紹介致します。

<学生の皆さんに必ず伝えていること！>

- 必ず、学習計画を立案する。  
夏休み前までに基礎をしっかりと身につけ、そして苦手科目が強化できるように計画を立てます。  
計画を立てないで学習した場合に比べ、明らかに学習量に差が出ます。無理のない計画を立て、計画に沿って日々学習することが国家試験合格の近道だと考えています。
- 国家試験の学習時間を確保する。  
学習時間を確保するというのは、何時間勉強するというものではありません。国家試験の学習は時間管理ではなく、ノルマ管理で学習するように説明しています。
- ノートの作成と活用  
国家試験の学習のために、ノートを作成する学生さんがいます。しかし、ノートの作成は11月末までに終わらせていただき、以降はノートを活用するように説明しています。作成したノートが綺麗なままで、覚えるために活用されていない危険性があります。
- 看護師と保健師の学習で重なるところは、一緒に学習を進める。  
本学は、全員が保健師と看護師の受験ができます。そのため、保健医療福祉政策の動向や統計に関する範囲は、両資格に必要な知識となるため、一緒に学習する必要があります。
- 模試は必ず自己採点を行い、重要箇所の振り返りを行う。  
模擬試験は、振り返りこそが大切となります。毎回の模擬試験結果が出たら、正答率の高い問題で間違えた箇所を見直すことが最優先となります。

以下、4年生で取り組んでいる国家試験対策の年間スケジュールとなります。  
本委員会では、これからも全員合格をめざし、学生の皆さんをサポートしていきたいと思っております。

令和7年度 国家試験対策委員会年間スケジュール (令和7年4月1日現在)												
前学期					後学期							
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
○担当教員との面談 ・国試ガイダンス ・国試学習計画立案	★第1回看護師模擬試験 ・看護師国試傾向分析	▲5月看護師国試傾向分析内容の確認 ▲グループ運営(20名程度)	○担当教員との面談 ★第1回保健師模擬試験 ・保健師国試傾向分析	◎官報(国家試験日程・受験地等)	○担当教員との面談	○担当教員との面談 ★看護師必修模擬試験 ★第2回看護師模擬試験	★第1回保健師模擬試験 ★第2回保健師模擬試験 ※理事・学長特別講義等 ・国家試験受験説明会	★第3回看護師模擬試験 ★第2回助産師模擬試験	○担当教員との面談 ▲グループ運営(20名程度) ★第3回保健師模擬試験	○担当教員との面談 ★第4回看護師模擬試験	◎保健師・助産師・看護師国家試験 ・国家試験受験説明会(受験票配布) ○担当教員との面談	◎国家試験合格発表(下旬)

## オープンキャンパス2024について

広報委員長 角川 志穂

看護学部オープンキャンパス 2024 では、学生主体の運営をめざし、学生ボランティアを公募、毎回約 40 名の学生が協力をしてくれました。学生主体とした理由は、学生が大学生活における体験や思いを参加者に伝えることで、大学の特徴や雰囲気を効果的にアピールできるという良さがあります。また参加者にとっては学生と交流することで、学校生活に対する疑問や不安を解消する場につながるからです。学生が寮見学や学生広場での相談対応、ラボ室での演習説明、バスを利用される参加者の案内等、多岐にわたり活躍してくれました。アンケートでは、高校生や保護者の皆様から「学生さんが丁寧で熱心に説明してくれて参考になった」「優しく感じが良かった」といった声が多くありました。協力した学生からは「役割を果たせてよかった」「来場者と交流できてよかった」「説明力を磨く機会になった」との声があり、非常に満足した表情を浮かべていました。今年度は、新たに本学の特色でもある「へき地の生活と看護」の演習紹介コーナーや「部活・サークル紹介コーナー」を設け、大変盛況でした。計 4 回のオープンキャンパスには 1,000 人を超える来場があり、アンケートでは約 9 割の方が「受験したい」とお答えくださいました。今後も学生と教職員が一丸となって、学部の広報活動を盛り上げていきたいと思っています。



ラボ室見学の担当学生と参加者

## オープンキャンパスに参加して

看護学部 3年 青木 裕亮

在学生としてオープンキャンパスに参加し、高校生の案内をさせていただいたことは、非常に有意義な経験となりました。私自身も高校生の時、オープンキャンパスに参加し、大学生活へのイメージを膨らませることができた経験もあり、今回、立場が変わって参加できることにとても感慨深いものがありました。

案内を通して、高校生のこれから大学生になることへの期待や、受験に対しての複雑な感情に触れることができました。そしてどのようなことに悩んでいるのか、どのようなことに対して不安を抱き積極的に質問をしているのか、大学選択と受験を控える高校生の感情を汲み取りつつ質問に答えることで、不安や疑問を解決することができたのではないかと思います。私がこのような対応ができたのも、高校生の時に自治医科大学のオープンキャンパスに参加し、不安や大学生活への楽しみが交差した複雑な気持を親身になって聞いて下さった先輩方の存在があると考えています。また、高校生と話す中で、大学の施設やカリキュラムについての理解を深めることができ、これからの学生生活をどのように過ごすべきか改めて考え直すことができました。私の話した内容がどれほど役に立つものかは分かりませんが、少しでも、大学選択への手助けや未来の大学生活へのイメージを膨らませるサポートができていたら良いと思います。



「へき地の生活と看護」演習紹介コーナー

## へき地の生活と看護 ～国内演習の取り組み～

科目責任者 川野 亜津子

看護学部では1～4年次を対象に「へき地の生活と看護」という地域における看護を学ぶための選択科目を開講しています。全国のへき地での研修を通し、地域の人々の生活や看護、社会資源の現状を理解して、へき地における看護の特徴を学ぶことができます。地域医療を重視する自治医科大学ならではの科目で、臨地演習先は全国で17カ所（令和7年度予定）、北は北海道夕張市、南は鹿児島県奄美大島まで、多くの施設のご協力、ご指導をいただいております。

履修学生は概ね50～60人ほど、学内での事前学習をしてから夏休みや春休みに臨地演習を行っています。へき地医療に興味がある、へき地で看護師や保健師として働きたい、といった希望を持って自治医科大学に入学した学生も少なくありません。現地では、巡回診療、訪問看護、デイサービス、保健師や理学療法士等との同行訪問、保健福祉事業への参加、医療者や住民の方々へのインタビューなど多くの経験を通して、学びに繋がっています。

さらに本科目の臨地演習に参加することで、多様な年代の様々な立場がある方々とのコミュニケーションを通し、将来の看護職としての成長も期待できるのではないかと考えています。



へき地の生活と看護  
国内演習での報告会の様子

## へき地での臨地演習で学んだこと

看護学部3年 池田 望帆

隠岐島前病院での演習では島民の方々の温かさに触れながら、楽しくも学びの多い充実した3日間を過ごすことができました。

特に印象に残っているのがサービス調整会議に参加させていただいた際の「この島で最期までみてあげたい」という強い思いがあるからどんなに忙しくてもこの会議にはたくさんの人が出席しているという話です。サービス調整会議では病院はもちろん、福祉協議会やデイサービスまで多くの職種がそれぞれの視点から考えを出し合うことで、患者さんに寄り添ったケアを検討していました。多職種の強い連携によって、島全体がチームとなり医療や福祉を提供していると感じることができました。島民と医療従事者の強い繋がりはこの島の強みの一つだと感じました。

島という小さなコミュニティの中で、「患者さんのために」と医療従事者が皆同じ思いをもつことや島民との関わりが深いことなどの持っている強みを存分に生かした医療・福祉の提供体制が島民の健康を守ることに繋がっていると学びました。



へき地の生活と看護  
国内演習地の風景

## キャリア支援の取り組み

学生委員会キャリア支援担当 島田 裕子

本看護学部では、教員と看護学務課の職員が協力して学生の就職や進学の手援を行っています。

その一環として、学生委員会のキャリア支援担当は、一年次から四年次のカリキュラムの進行に合わせて、キャリアガイダンス等のプログラムを実施しています。

これに関する最も大きなイベントとして、毎年2月に実施している、三年次生を対象とした「将来のキャリアを考える会」があります。看護学部同窓会の協力を得て、看護師、保健師、助産師として各方面で活躍している卒業生を招き、各自のキャリアについて話していただき、参集した学生との交流を行っています。卒業生は、新人の頃の様子や様々な困難をどう乗り越えてきたか、転職や進学等の契機、ワーク・ライフ・バランスを含めた現在までの職業生活、今後の方向性等について話をし、学生は、目をきらきらと、輝かせながら、質問する姿がみられています。学生の感想では、自分の将来には看護職として様々な選択肢があることを実感できた、との声が多く聞かれています。本看護学部は、必要な単位を取得すれば、学生全員が看護師と保健師の国家試験受験資格が得られる統合カリキュラムであるため、卒業生が看護職としての選択肢を自分らしく広げて活躍している事に繋がっているのではないかと考えています。

本看護学部の学生一人ひとりが、自分らしくキャリアを形成していくための一助となるべく、これからもキャリア支援活動に取り組んでまいりたいと思っています。



キャリアガイダンス 3-3  
「将来のキャリアを考える会」の様子

## キャリアガイダンスに参加して学んだこと

看護学部4年 渡海 千鶴帆

令和7年2月25日に開催されたキャリアガイダンス「卒業後の進路の開拓」では、履歴書の効果的な書き方や面接時のマナー、面接に必要な準備や対策について学ぶことができ、採用試験までにやるべきことを明確にすることができました。

また、同日午後には本学部を卒業して活躍されている看護師や保健師、助産師との交流の場がありました。私は、老年看護専門看護師の資格を取得されている看護師や特定行為研修を修了している看護師、助産院を開業している助産師などのプレゼンテーションを聴きました。この交流を通して、働いていく中で様々な困難や葛藤に直面した際に、それらの課題を解決するためには向上心を持って常に積極的に行動することが重要であると学びました。自らの能力が向上することで、対象者に提供される看護の質も向上し、結果的には対象者に良い影響をもたらすということも学びました。

看護職としての働き方は何通りもありますが、将来は、自分を高めていける場所で働きたいと思っています。先輩看護職の皆さんのように、常に向上心を持ち積極的に学び続ける姿勢を大切にしていきたいと思っています。

## 令和6年度自治医科大学卒業式および学位記伝達式

令和7年3月7日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、令和6年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました（医学部48期生135名、看護学部20期生106名）。

式典では、看護学部を代表して難波桃子さんに、永井学長から卒業証書・学位記が授与されました。卒業式終了後、看護学部校舎において、学位記伝達式が開催されました。



式典の様子



学部長からの学位記授与



橋本礼華さんによる送辞



難波桃子さんによる答辞

## 令和7年度自治医科大学入学式

令和7年4月4日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、令和7年度自治医科大学入学式が執り行われました。今年度は医学部54期生123名、看護学部24期生105名が入学し、看護学部を代表して白石明日香さんが誓いの言葉を述べました。



式典の様子



白石明日香さんによる誓いの言葉



理事長からの挨拶



学長からの式辞

## 看護学部 学科目別教員一覧 (令和7年7月1日現在)

(職階別五十音順)

学科目	職位	氏名	備考	学科目	職位	氏名	備考	
看護基礎科学	教授	大塚 公一郎	学生委員長 学年担当アドバイザー総括	母性看護学	教授	川野 亜津子	広報委員長	
	教授	倉科 智行	2 学年担当アドバイザー		教授	角川 志穂		
	准教授	関山 友子			講師	上野 知奈		
	准教授	平尾 温司	1 学年担当アドバイザー		講師	千葉 邦子		
	講師	鹿野 浩子			講師	谷田部 典子		
基礎看護学	教授	小原 泉	看護学部長	助教	岡村 慧美	3 学年担当アドバイザー		
	教授	内堀 真弓	1 学年担当アドバイザー	助教	二宮 美由紀			
	講師	井上 育子		1 学年担当アドバイザー	准教授		田村 敦子	
	講師	鈴木 朋子	講師		飯島 早絵			
	助教	大串 未来	講師		小西 克恵			
地域看護学	助教	小野寺 将希	4 学年担当アドバイザー	助教	赤羽 郁美	2 学年担当アドバイザー		
	教授	春山 早苗		成人看護学	教授		村上 礼子	教務委員長
	教授	島田 裕子			教授		長谷川 直人	
	教授	塚本 友栄			准教授		佐藤 幹代	
	准教授	市川 定子			准教授		古島 幸江	
講師	青木 さぎ里	講師	佐々木 彩加					
精神看護学	講師	安藤 恵	4 学年担当アドバイザー	講師	渡邊 賢治	3 学年担当アドバイザー		
	講師	路川 達阿起		助教	小川 晴香			
	助教	地神 由加里		助教	村松 真吾			
	助教	戸田 あい		老年看護学	教授		浜端 賢次	国家試験対策委員長
					准教授		川上 勝	
		助教	長田 まりえ					
		助教	國府田 望					
		部兼務	准教授		八木 街子	看護師特定行為 研修センター本務		

## 令和7年度年間スケジュール (R7.7.1時点)

前学期						後学期					
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2・3・4 年次 前学期授業開始(2日) 入学式(4日) 1 年次 前学期授業開始(7日) 春季休業(4月28日～5月6日)	創立記念日(14日) 3 年次 各論実習① (主に病院での実習、12日～7月25日)	1 年次 対象の理解実習(23日～27日)	4 年次 総合実習(25日～8月17日) 1・2 年次 定期試験(22日～24日) 4 年次 定期試験(15日～17日)	再試験(8月25日～8月27日) 夏季休業(8月12日～9月23日)	2 年次 日常生活援助実習(24日～10月31日) 後学期授業開始(24日) 4 年次 選択助産学実習(8月25日～11月7日)	薬師祭(10日～12日)	防災避難訓練(4日) 3 年次 各論実習② (主に地域、在宅、病棟での実習、17日～2月20日)	冬季休業(12月27日～1月8日)		1 年次 定期試験(9日～13日) 2 年次 定期試験(10日～13日)	卒業式(6日) 再試験(2日～3日)

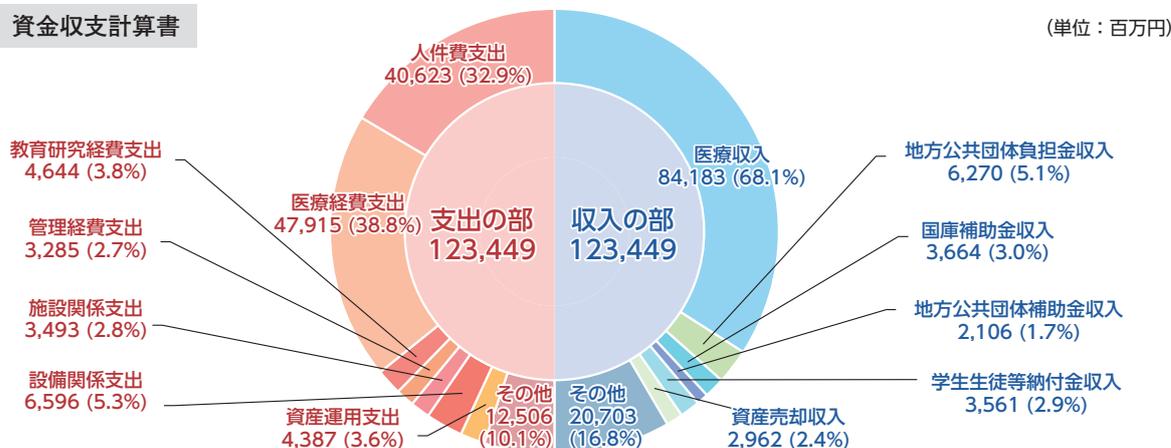
## 令和6年度 学校法人自治医科大学決算について

令和7年5月28日（水）に開催された理事会及び評議員会において、令和6年度学校法人自治医科大学決算が承認されました。決算の概要は次のとおりです。

### ・資金収支計算書（図1）

1年間に実際に収入又は支出した金額（現金ベース）を主として科目別に分類して表した決算書です。

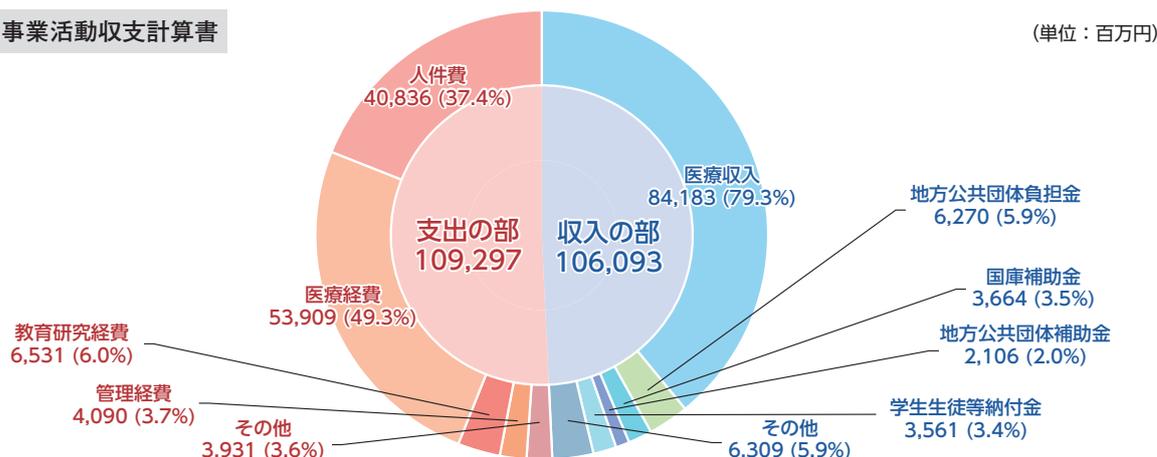
図1 資金収支計算書



### ・事業活動収支計算書（図2）

企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。

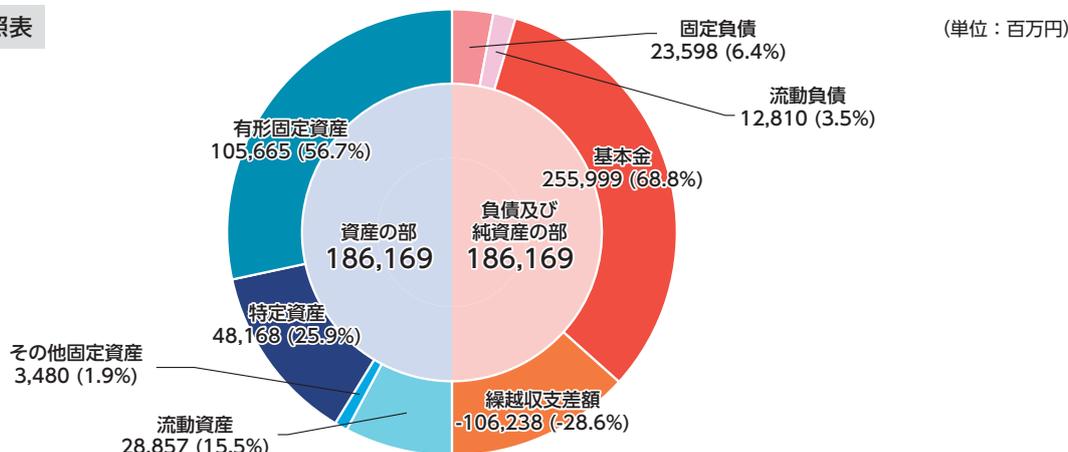
図2 事業活動収支計算書



### ・貸借対照表（図3）

6年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

図3 貸借対照表



※財務状況等の詳細は、大学ホームページ  
[https://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public\\_info/](https://www.jichi.ac.jp/gaiyo/public_info/)の「情報公開」でご覧になれます。



## 令和6年度事業の概要について（大学事業報告書より、看護学部関係一部抜粋）

看護学部は、4年間の教育課程を通じて、豊かな人間性を涵養することに力を注ぎ、高い資質と倫理観を有し高度医療と地域の看護に貢献できる看護職者を育成するため、次の取組を実施しました。

### ① 学生教育に関すること

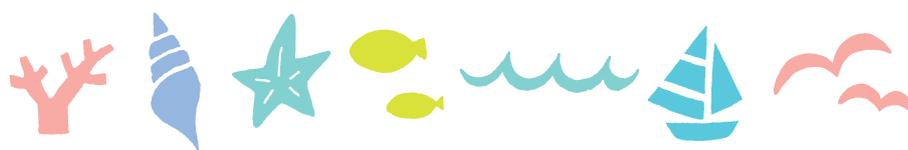
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正に対応した新カリキュラムについての確かな実施に努めた。
- ・教務委員会において、国家試験対策委員会の低学年模試の経年的結果の推移の情報提供を受け、意見交換を行い、低学年からの成績下位層の学生の学習支援強化の必要性について検討した。
- ・国家試験対策について、学生のGPA（成績評価指標）成績と模試成績を分析し、学習支援の強化が必要な者に対し、個別指導を実施した。
- ・IRの活用について検討し、令和6年度から実習評価も含め評価指標をデータとして点数化することを推進した。

### ② 学生の受け入れ・支援に関すること

- ・令和7年度入試（令和6年度実施）から、出願者の利便性向上のため、インターネット出願方式を導入した。
- ・オープンキャンパスを対面で4回開催した。参加者アンケートから、様々な企画に対して満足度の高いコメントが得られており、効果的な広報活動に繋がった。

### ③ 学生への支援について

- ・学生と看護学部長との懇談会、学生自治会・学生寮自治会と学生委員会委員との連絡会を定期的に実施した。また、寮運営担当・学生自治会担当教員が主たる調整役となり、学生自治会・学生寮自治会活動の活性化への働きかけを行った。
- ・附属病院看護職キャリア支援センター、看護学部・看護学研究科同窓会と連携・協力し、学生委員会が中心となり、キャリアガイダンスを実施し、学生のキャリア支援を行った。



### 編集後記

看護の学びや日々の気づきをぎゅっと詰め込んだ今号が、Nurseを志す学生や学生を支援して下さっている皆さまの日常に小さな潤いをもたらす、「ビタミンN」として心に届けば幸いです。次号もよりよい内容をお届けできるよう努めてまいりますので、引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

（担当：角川 志穂、市川 定子、小西 克恵、松井 千紘）

### ビタミンN 第22号

発行日：令和7年7月23日

発行：自治医科大学看護学部

本件に関するお問い合わせ先：

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

T E L 0285-58-7409（看護総務課）

E-mail ksoumu@jichi.ac.jp